

## 7. 木質バイオマス利活用の実態 (7)

### 木質ペレット輸入量の国別推移

2020年の木質ペレット輸入量の順位は図表7.7の通りで、1位は英国で2位の韓国の3倍と抜きん出ている。次いでデンマーク、オランダ、日本、イタリア、ベルギーと比較的生産量の少ない国々が並んでいる。いずれの国も脱炭素、再エネ利用を薦める環境政策に大きく依拠して木質ペレット輸入量を増大している。

**英国**：2008年に二酸化炭素排出量を規制する国内法「気候変動法」を制定。温室効果ガス排出量を2050年までに1990年比で80%削減することを義務付け、特に電力部門については、2020年までに厳しい削減目標を掲げている。そのため英国最大の発電所 Drax が2011年からペレット輸入を開始し、石炭からバイオマスへの転換を積極的に進めている。

**韓国**：2020年にはカナダを追い抜いて第2位に躍進した。ほとんどが発電需要である。「一口メモ：4.5 木質ペレットの国際貿易の実態」も参照ください。

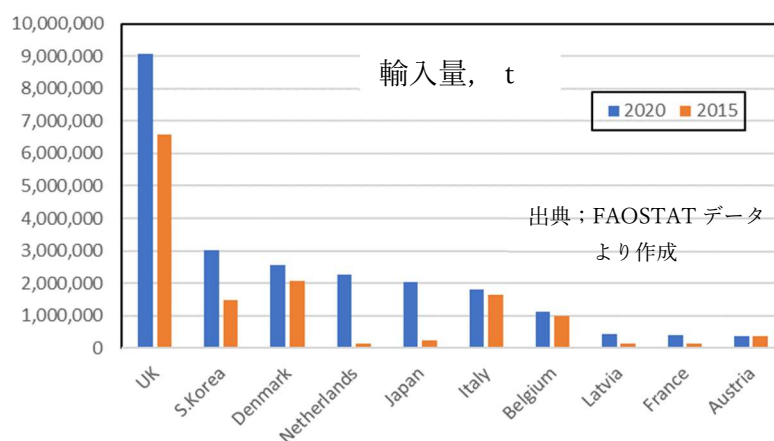
**デンマーク**：2050年に化石燃料からの脱却を目指した再エネ政策によって2009年以降着実にペレット消費量を増加させて、輸入増をもたらせている。用途は大規模な熱電併給（CHP）が利用量の約70%を占めるが、中・小規模の熱利用も活発である。

**オランダ**：2013年に「持続的成長を可能とするためのエネルギー協定」が国内の関連機関とのア宇田に締結され、それに基づいて石炭と木質ペレットとの混焼発電が推進された。とくに2018年から2020年にかけて4基の石炭混焼発電所が稼働し、ペレット輸入量が急増した。

**日本**：世界で最も急速に成長している輸入国として浮上。「一口メモ4.3 わが国のペレット輸入量と自給率」を参照ください。

**イタリア**：他の国々の輸入ペレットは、通常発電用の工業用であるが、イタリアは特異で、唯一家庭暖房用の高品質ペレット輸入である。これには税制上の優遇措置、助成金などの政府スキームが機能している。

**ベルギー**：2004年に発電・工業用ペレットにEU諸国で初めてグリーン認証（環境価値の認証）を設定。用途は発電需要である。



図表 7.7 木質ペレットの国別輸入量とその推移